2013. 9.1.
第 1 号

Tutti

軽井沢シンフォニックコーラス

ごあいさつ　　団長　真崎隆治

この4月からはからずも団長になりました。恐れ多いことながら、これも年齢のなせるところかと、まだ呆けきらないうちにお受けすることにしました。至らぬことは承知のうえです。初代団長の寺田泉さんの令名を汚さないように頑張リます。よろしくお付きあいください。

合唱は一人一人が大切です。多くの音楽がそうであるように、合唱も「私」という一人が「他」の一人一人と力を合わせてつくリあげる音楽です。この合唱団にいる一人一人は他のどこにもいないここだけの一人一人ですから、ここで創リだされる音楽もここにしかない特別な音楽になリます。

そのためには「歌う」ことと「聴く」ことが同じに大切になります。他のパートが練習しているときにも、よく耳をすませていれば曲のかたちや意味が見えてきて、自分がどう歌うべきかを教えてもらえます。

合唱のすばらしさは、自分は不完全であっても、仲間たちと助けあい、補いあい、励ましあうことで、自分だけでは思いもよらないほど豊かな音楽を実現できるところにあリます。アマチュアの合唱団であればそのことがますます大きな意味を持ってくることでしよう。もちろん合唱には苦しみもあリます。そこから逃げ出さずに努力して乗りこえるとき、大きな達成感とよろこびのご褒美が待っていてくれます。そこには生きていることに通じあうものがあるように思われます。

一つの合唱団のなかだけでなく、他の合唱団と知リあうことも大切なことです。そうすることによって「独リよがり」にならないですみます。〈緑の音楽祭〉はそのよい機会を与えてくれています。それ以上に私たちにとってすばらしいことは、〈かなんJOY合唱団〉との交流です。これは格別なものといえます。大きく言えば、山奥の町と海辺の町という異文化の交流です。土地風土の違いはその音楽にも影響を及ぼしているはずです。自分と異なるものに触れるとき、人は驚きとともにそれを受け入れ、新しい自分を見つけることになります。力づけて差し上げようと始めた〈かなん〉との交流が、いつか私たちのほうが力をいただいているような思いがしています。

今度の石巻行きでは、いまだに解消していない被災地の困難な状況を自分の目でしっかリ見つめてくるとともに、両合唱団がよい刺激を 与えあいながらさらに合唱のよろこびを人々の心に発信していくものへ育ち行く機会となることを願っています。

手のかかる合唱団　指揮者　寺田和佳子

この合唱団を一言でいうと、手のかかる合唱団と言えるでしょう！

構成メンバーは私よりはるか年上ばかり、そんな方々に“手のかかる”とは全く失礼なのですが、手のかかる子ほど可愛いのは言うまでもありません。

手はかかるけど、かけただけの価値のある合唱団とも言えます。

前にやったことをすぐ忘れてしまうことは歳のせいにしておくとして、まずメンバー違が歌うことに前向きで真面目であること、演奏の喜びを感じつつ客観的に自分達の演奏を振リ返ることができること、練習を楽しみながらやること、そして少しずつでも上手く、いい演奏をしようとの向上心を持って取り組むこと。これらが揃ったバランスのいい合唱団であります。

個人の満足におわることなく、 自分の家族や聴衆をも幸せにしてくれる歌声を生みだ す合唱団であると言えるでしょう。

更に上手くなるには、忘れる割合を少なくするこ

と、積極性と柔軟性を持つこと。わかりやすくいうと、派手さと繊細な部分が個人個人で出せれば、もっと表現が大胆になり、聴いている人を飽きさせないものになると思います。

私も最近少し欲が出てきて細かい所にこだわりを求めるようになってきました。気づいていましたか？初めての曲でも音取りだけでなく、同時に強弱などの表現を求めるようにしています。これは以前には出来なかったことです。私自身も合唱団とともに成長し、喜びを感じながら指揮をしています。

いずれ合唱団の良さをもっと引き出してくれる指揮者が必要になる時がくるでしょう。その時がくるまでお付きあいしたいと思います。これからもどうぞよろしく！

私が入団したころ

ソプラノ/パート･リーダー **小倉まり子**

私がシンフォに参加させて頂くようになったのは、組曲『美しい村』が創られた、2007年の夏からです。寺田泉先生にお声をかけて頂き、初めて練習に参加した日は、

「浅間大噴火」の曲の練習の真最中で、とても難しく、大変なところへ来てしまった！という印象でした。それから秋の本番の日まで、皆さんと一緒にとにかく必死で練習しました。当日はお客様から沢山の拍手を頂き、無事に終わったという安堵感で、楽屋はみんなの笑顔と明るい声であふれていたのを覚えています。

あれから六年たち、現在のシンフォは、「常にハーモニーの大切さを忘れずに」、というお二人の素晴らしい先生の御指導のもと、お互いの声の響きを感じ合いながら合唱する、本当に心地よいかけがえのない時間を過ごすところになっています。

今年のソプラノパートの目標は、「きれいでなおかつ力強く！」です。人数が少し増えてくれるといいな、と願いながら、6人で心を合わせてチームワークで頑張っています。

シンフオニックに寄せて

アルト/バート•リーダー**工藤美枝子**

2003年に軽井沢に移住した翌年「大賀ホールで第九を歌う会」に参加、2005年に第九を歌い、その仲間から現在のシンフォニックが誕生しました。あれから8年、アルトを担当させていただいています。

シンフォニックは2 0数名からなる混声合唱団です。ほとんどの方が職業を持ち、金曜日の午後7時
～9時30分の練習に集まってきます。 私のように初心者から合唱の経験をつんだ方まで、多様なレベルの人たちからなるグループです。このところ男性の入団者が増え、嬉しいがきりですが、負けずに女性も増えてくれたらと願っています。
雰囲気は非常に和やかで、何しろ楽しいです。私は元来してみたいと思ったことは取りあえずしてみる性分です。好奇心といいましょうか。それがうまくいって今に至っています。

からだをときほぐす体操に始まる発声練習をしてから歌うことが全身運動になっているようで、元気の源になっているようです。その積み重ねのうえで演奏会で歌い終わると、満ち足りた思いを感じます。合唱は私にとって心身共に充実させてくれるものです。ご指導くださる先生方に感謝しつつ、これからも皆と元気に楽しく歌っていきたいと思います

シンフォの歴史とともに

テノール/パート･リーダー **北澤盛雄**

この団の生い立ちは、平成17年の大賀ホールこけら落としにベートーヴェンの第9 を歌った人が集まってできたと聞いています。私は平成19 年、軽井沢組曲『美しい村』の発表会 直前に仲間入りしました。

この曲は、今は亡き寺田泉さんの多大なご努力により、シンフォの委嘱作品として実現されたもので、演奏会開催にまつわるご苦労とともに、忘れることのできない泉さんの思い出です。

全14曲からなる組曲のうち、女声合唱の曲やソリストのための曲などを除いて、男声が歌うのは8曲あります。私は遅れて練習を始めましたので、家で毎日パート練習をしなければならず、その上に、大勢のお客様の前で歌うのも初めてでしたので、ともかくパートを歌うのに夢中だったことを覚えています。

結成以来8年になりますが、その間、寺田・坂井両先生に変わらずご指導いただいて、楽しくコーラスができることを幸せに感じています。

私たちはいずれも歌うことが好きな者の集まりですから、これからもお互いに努力しながら歌い続けられることを願っております。

「聴き上手」になりたい

バス/パート･リーダー **山内彦太**

途中数十年間のブランクはありましたが、私が合唱を始めて今年は6 0年目になります。経験を経るにつれて(正確にはただ歳を重ねただけですが)、合唱の難しさ及び自分の不甲斐なさに直面しております。何故か？ それは年々楽譜の読解力･暗譜力が低下しているからだと思います。

「話し上手は聞き上手」と言いますが、逆も 真なりで、「聞き上手は話し上手」なのです。 これは合唱にも通ずる言葉でしょう。即ち聴き 上手こそ歌い上手になるのです。他のパートの 聴き上手になるにはまず自分のパートを暗譜するぐらいにならないと他のパートを聴く余裕が出てきません。嘗ては初見でメロディーが浮かんできたものですが今はだめです。情けなく思いますがその分何回も何回も楽譜に目を通すようになりました。

先日真崎団長より、和佳子先生があるパートに指示されている時は、他のパートの人違もそれを良く聞く様にと注意を促されました. 特定のパートだけの指示と受け止めず、全負共通の指示と理解することが「聴き上手は歌い上手」になり美しいハーモニーを創り出す秘訣でしよう。

シンフォに入って

ァルト **遠山美枝子**

出会いって不思議ですよね. 第九のあと、新しいコーラスグループを作るからと声をかけていただいて、すぐとびつきました。泉先生のバイタリティーに感心させられ、その力にひかれ、シンフォに入ってしまったのです。

歌うことが大好きで、人の迷惑も顧みず、 ハーモニーを楽しんでいます。最近では不協和音も少し耳憤れてきたように思いながら歌っています。

そして和佳子先生のロから出る言葉、「トウッティで!!」の響きもいいですね。<皆さん一緒に>との意味は後から教えてもらって、「おしゃれ」と思いました。

混声合唱なので、歌声がホール一杯響きわたる感じの盛大さと、和佳子先生の「踊る指揮」 の楽しさがたまりません。

シンフオニックに入って、とっても良かった！

お知らせ

10月と11月の予定

10月4日(金) 練習19:00〜21:30
11日(金) 練習19:00〜21:30
25日(金) 練習19:00〜21:30 (カウフマン宅)
11月1日(金) 練習19:00〜21:00<会場設営>
2日(±) 第2回「秋のコンサート」(仮題)
8日(金) 練習19:00〜21:30
14日(木) 練習19:00〜21:30 (会場未定)
16日(土) かなんＪＯＹ合昌団との演奏会
22日(金)(未定)
29日(金)(未定)

この他に随時男声の特訓がはいります。

石巻への旅の予定

往き 軽井沢発6時33分(あさま500号)大宮発7時42分(はやて101号)
古川着9時12分

帰り 仙台発14時46分(やまびこ144号)大宮発16時50分(あさま533号)
軽井沢着は17時27分の予定

小倉さん、遠山緑さん、安光さんが「駅ネット」で割引券を買うために奮闘してくださっています。その結果やジパングでの購入料金をあわせて全興同一料金になるようにi十算します。 料金やスケジュールの _ などは追ってお知らせします。

秋のコンサート(借宿コンサート)

予定されている11月2日はあっという間にやってきます。集中して練習しましょう。さまざまな準備も始まります。よろしくご協力ください。

借宿公民館での演奏会を私たちの定期演奏会として位置づけたいと考えています。「第〇会定期演奏会」などという堅苦しいものでなく、私たちの借宿での演奏会にふさわしい名前をつけたいの ですが、アイデアをお寄せください。

編集後記

♪歌の心を言葉であらわすこと。シンフォの「意誦」を伝える会誌がやっとできました。約束よ り大幅に遅れましたが、ともあれここに日の目を見たのはうれしいことです。

♪TUTTIというタイトルは、遠山緑さんが提案してくださいました。「皆一緒で！」これぞシン フォの心意気。すてきです。

♪タイトルの絵は、母の会幼稚園の仲田郁 (なかたかおる)さんに描いていただきました。山があり、木があり、鳥が鳴いて、星が光って、まさに軽井沢です。この場をお借りして御礼申しあげます。

♪今年度の"TUTTI"作成は、村野(アルト)と真崎(バス)が担当しています。ご意見やご感想をお聞かせください。

♪今回は第1号なので、団長、指揮者、各パート･リーダー、昨年度の運営委員長の皆さんに原稿をお願いしました。次号は石巻での演奏会を中心に、かなんの皆さんの声も入れて、年内の発行を考えています。(真)